

I 計画 1. 日本建築作品の項目別一覧表

平成19年度 問題1	平成20年度 問題1	平成21年度 問題1	平成22年度 問題1	平成24年度 問題1
住宅の作品とその計画上的特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、()内は竣工年、所在地を示す。	日本建築史に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物とその設計者との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。	日本の歴史的な建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	日本の歴史的な建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 ル・コルビュジェが設計したヴ・ア邸(1921年、フランス)は、中央コア部分以外に間仕切りがなく、外周部が柱で支えられた住宅である。	1 法隆寺金堂(奈良県)は、重層の入母屋造りの屋根をもつ堂であり、飛鳥様式で建てられた建築物である。	1 軽井沢の山荘(吉村順三)	1 円覚寺舍利殿(神奈川県)は、部材が細く、屋根の反りが強い等の禪宗様(唐様)の特徴をもった建築物である。	1 伊勢神宮内宮正殿(三重県)は、正面入口を妻側に設けた神明造りの建築物である。
2 フランク・ロイド・ライトが設計した落水荘(1936年、アメリカ)は、2層の床スラブが滝のある溪流の上に張り出し、周囲の自然の眺めを味わえるように意図された住宅である。	2 平等院鳳凰堂(京都府)は、中堂の左右に重層の翼廊が配置されており、奈良時代に建てられた建築物である。	2 塔の家(篠原一男)	2 伊勢神宮内宮正殿(三重県)は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた建築物である。	2 法隆寺金堂(奈良県)は、構造上の特徴として、天秤式に釣り合うように計画された雲形組物を有する建築物である。
3 清家清が設計した斎藤助教め家(1952年、東京都)は、テラス、廊下、居間が連続する開放的な空間に、可動の家具を配置し、障子や畳などの和風の要素と洋風要素を融合させた木造平家建の住宅である。	3 中尊寺金堂(岩手県)は、外観が総漆塗りの金箔押しで仕上げられた方三間の仏堂であり、平安時代に建てられた建築物である。	3 ぶるーぼくす(宮脇檀)	3 鹿苑寺金閣(京都府)は、方形造りの舍利殿で、最上層を禪宗様(唐様)、二層以下を和様とした三層の建築物である。	3 鹿苑寺金閣(京都府)は、方形造りの舍利殿で、最上層を禪宗様仏堂風の形式とし、二層を和様仏堂風、一層を住宅風とした建築物である。
4 菊竹清訓が設計したスカイハウス(1951年、東京都)は、山形の特長を生かして居住部分の側面に、取替えや位置の変更が可能な「ムーブメント」と呼ばれる設備ユニットを据え付けた住宅である。	4 東大寺南大門(奈良県)は、大仏様の建築様式であり、鎌倉時代に再建された建築物である。	4 フィッシャー邸(レイス・カーン)	4 薬師寺東塔(奈良県)は、本瓦葺きの三重塔であり、各重に裳階が付いた建築物である。	4 清水寺(京都府)は、急な崖に建っている本堂の前面の舞台を、長い東柱で支える懸造りの建築物である。
5 安藤忠雄が設計した住吉の長屋(1976年、大阪府)は、ファサードに玄関以外の開口部がなく、住宅の中央部に光庭を設けた住宅である。	5 日光東照宮(栃木県)は、本殿と拝殿とを石の間で繋ぐ権現造りの形式による重層建築であり、江戸時代に建てられた建築物である。	5 ロビー邸(フランク・ロイド・ライト)	5 厳島神社社殿(広島県)は、檜皮葺きの殿堂を回廊で結び、海面に浮かんで見えるように配置した建築物である。	5 桂離宮(京都府)は、古書院、中書院、新御殿等から構成され、書院造りに茶室建築の特徴を取り入れた数寄屋造りの建築物である。

・センター許諾条件に基づき、無料講座内での過去問の公開は控えております。
 ・会員講座は、この部分を削除して全て読めるようにしております。

解答 (正解肢1)	解答 (正解肢2)	解答 (正解肢2)	解答 (正解肢4)	解答 (正解肢1)
× 1 サヴォア邸は、1階ピロティ、2階主室、3階屋上庭園と客室のあるバリエーションに建つ独立住宅である。設問は、ファンズワース邸の説明である。	○ 1 法隆寺金堂は、重層の入母屋造りの屋根をもつ堂であり、飛鳥時代に建立され、火災により焼失後、奈良時代に再建された建築物である。	○ 1 軽井沢の山荘(吉村順三)は、森林の中にも建つ、1階がコンクリート造、2階が木造の「自然と共にある」という別荘である。	○ 1 円覚寺舍利殿は、部材が細く、屋根の反りが強い等の禪宗様(唐様)の特徴をもった鎌倉時代の建築物である。	× 1 伊勢神宮内宮正殿は、正面入口を妻側ではなく、軒側に設けた神明造りの建築物である。
○ 2 落水荘は、2層の床スラブが滝のある溪流の上に張り出し、周囲の自然の眺めを味わえるように意図された住宅である。	× 2 平等院鳳凰堂は、中堂の左右に吹き放しの翼廊が配置されており、平安時代に建てられた建築物である。	× 2 塔の家(東孝光)は、約20㎡の小面積に建つ、4階、地下1階の鉄筋コンクリート造の都市型住宅である。	○ 2 伊勢神宮内宮正殿は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた神明造りの建築物である。	○ 2 法隆寺金堂は、構造上の特徴として、天秤式に釣り合うように計画された雲形組物を有する建築物である。
○ 3 斎藤助教め家は、テラス、廊下、居間が連続する開放的な空間に、可動の家具を配置した木造平家建の住宅である。	○ 3 中尊寺金堂は、外観が総漆塗りの金箔押しで仕上げられた方三間の仏堂であり、平安時代の建築物である。	○ 3 ぶるーぼくす(宮脇檀)は、崖地に建つ四角いコンクリートボックスが特徴の住宅である。	○ 3 鹿苑寺金閣は、方形造りの舍利殿で、最上層を禪宗様(唐様)、二層以下を和様とした三層の建築物である。	○ 3 鹿苑寺金閣は、方形造りの舍利殿で、最上層を禪宗様仏堂風の形式とし、二層を和様仏堂風、一層を住宅風、二・三層の内外壁面が金箔の建物である。
○ 4 スカイハウスは、4枚の壁柱に支えられた居住部分の側面に、取替えや位置の変更が可能な「ムーブメント」と呼ばれる設備ユニットを据え付けた住宅である。	○ 4 東大寺南大門は、大仏様の建築様式であり、鎌倉時代に再建された建築物である。	○ 4 フィッシャー邸(レイス・カーン)は、フィラデルフィア郊外に建つ、約8m角の2つの立方体が約45°の角度で接合させた住宅である。	× 4 薬師寺東塔は、三重塔であり、中門内の金堂の前方東西に二基の塔を配した釈迦配膳の薬師寺式である。	○ 4 清水寺は、急な崖に建っている本堂の前面の舞台を、長い東柱で支える懸造りの建築物である。
○ 5 住吉の長屋は、ファサードに玄関以外の開口部がなく、住宅の中央部に光庭を設けた住宅である。	○ 5 日光東照宮は、本殿と拝殿とを石の間で繋ぐ権現造りの形式による重層建築であり、江戸時代に建てられた徳川家康を祭る建築物である。	○ 5 ロビー邸(フランク・ロイド・ライト)は、アメリカ中西部の草原に自然と融和するように建つ、3階建ての住宅である。	○ 5 厳島神社社殿は、檜皮葺きの殿堂を回廊で結び、海面に浮かんで見えるように配置した建築物である。	○ 5 桂離宮は、古書院、中書院、新御殿等から構成され、書院造りに茶室建築の特徴を取り入れた数寄屋造りの建築物である。

平成25年度 問題1	平成26年度 問題1	平成26年度 問題2	平成27年度 問題1	平成28年度 問題2
建築物とその設計者との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。	日本の歴史的な建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	住宅作品に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、()内は竣工年、所在地を示す。	建築物とその設計者との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。	日本の歴史的な建築物に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 日本銀行本店(1896年):ジョサイア・コンドル	1 薬師寺東塔(奈良県)は、各重に裳階が付いた本瓦葺きの五重塔であり、奈良時代に建てられた建築物である。	1 小篠邸(1981年、兵庫県)は、コンクリートで仕上げられた中庭を挟んで平行に配置された2棟と円弧を描いた増築のアトリエから構成され、敷地の段差を巧みに処理して光を採り込んだ住宅であり、安藤忠雄が設計した。	1 聴竹居(1927年):藤井厚二	1 円覚寺舍利殿(神奈川県)は、部材が細く、屋根の反りが強い等の和様の特徴をもつ建築物である。
2 旧赤坂離宮(迎賓館)(1909年):片山東熊	2 円覚寺舍利殿(神奈川県)は、部材が細く、組物が精密に細工され、屋根の反りが強い等の禪宗様(唐様)の特徴を持った建築物である。	2 立体最小限住居(1950年、東京都)は、住宅に関する技術・工法の合理主義的発想から、吹抜け空間を設けることで、最小限でありながら空間的広がりを持たせた住宅であり、池辺陽が設計した。	2 旧東京中央郵便局(1931年):吉田鉄郎	2 桂離宮(京都府)は、古書院、中書院、新御殿等から構成され、書院造りに茶室建築の特徴を取り入れた数寄屋造りの建築物である。
3 旧帝国ホテル(1922年):フランク・ロイド・ライト	3 法隆寺金堂(奈良県)は、重層の入母屋造りの屋根を持つ堂であり、飛鳥様式で建てられた建築物である。	3 スカイハウス(1951年、東京都)は、山形の特長を生かして居住部分の側面に、取替えや位置の変更が可能な「ムーブメント」と呼ばれる設備ユニットを据え付けた住宅であり、菊竹清訓が設計した。	3 神奈川県近代美術館(1951年):坂倉準三	3 伊勢神宮内宮正殿(三重県)は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた建築物である。
4 神奈川県立近代美術館(1951年):坂倉準三	4 中尊寺金堂(岩手県)は、外観が総漆塗りの金箔押しで仕上げられた方三間の仏堂であり、平安時代に建てられた建築物である。	4 塔の家(1966年、東京都)は、都市部の狭い不整形な敷地に対し、住空間は極めて狭いながら垂直方向に積層して広がりを持たせた住宅であり、東孝光が設計した。	4 広島平和記念資料館(1952年):丹下健三	4 薬師寺東塔(奈良県)は、本瓦葺きの三重塔であり、各重に裳階が付いた建築物である。
5 国立西洋美術館本館(1959年):ル・コルビュジェ	5 東大寺南大門(奈良県)は、大仏様(天竺様)の建築様式であり、鎌倉時代に再建された建築物である。	5 軽井沢の山荘(1963年、長野県)は、1階部分が土台を兼ねた鉄筋コンクリート造で、その上に大きく張り出した片流れ屋根の木造2階部分が特徴の住宅であり、坂倉準三が設計した。	5 東京文化会館(1961年):前川國男	5 日光東照宮(栃木県)は、本殿と拝殿とを石の間で繋ぐ権現造りの重層建築である。

・センター許諾条件に基づき、無料講座内での過去問の公開は控えております。
 ・会員講座は、この部分を削除して全て読めるようにしております。

解答 (正解肢1)	解答 (正解肢1)	解答 (正解肢5)	解答 (正解肢4)	解答 (正解肢1)
× 1 日本銀行本店は、辰野金吾の設計であり、バロック様式にルネサンス様式を取り入れたネオ・バロック様式の建物である。	× 1 薬師寺東塔(奈良県)は、各重に裳階が付いた本瓦葺きの三重塔であり、奈良時代に建てられた建築物である(五重塔ではない)。	○ 1 小篠邸は、安藤忠雄の設計であり、中庭を挟んで平行に配置された2棟と円弧を描いた増築のアトリエから構成された住宅である。	○ 1 聴竹居(1927年)は、藤井厚二の設計であり、日本の気候に併せた環境共生住宅の原点と言われる実験住宅である。	× 1 円覚寺舍利殿は、部材が細く、屋根の反りが強い等の禪宗様(唐様)の特徴をもつ建築物である。
○ 2 旧赤坂離宮(迎賓館)は片山東熊の設計であり、湾曲した両翼がシンメトリーとなっているファサードのネオ・バロック様式の建物である。	○ 2 円覚寺舍利殿(神奈川県)は、部材が細く、組物が精密に細工され、屋根の反りが強い等の禪宗様(唐様)の特徴を持った建築物である。	○ 2 立体最小限住居は、池辺陽の設計であり、住宅の技術・工法の合理主義的発想から、吹抜け空間により最小限でありながら空間的広がりを持たせている。	○ 2 旧東京中央郵便局(1931年)は、吉田鉄郎の設計であり、装飾を排した外観と柱梁による真壁構造に特徴のある郵便局である。	○ 2 桂離宮は、古書院、中書院、新御殿等から構成され、書院造りに茶室建築の特徴を取り入れた数寄屋造りの建築物である。
○ 3 旧帝国ホテルは、フランク・ロイド・ライトの設計であり、幾何学模様を彫刻した仕上げとし、水平の軒が特徴的な外観の建物である。	○ 3 法隆寺金堂(奈良県)は、重層の入母屋造りの屋根を持つ堂であり、飛鳥様式で建てられた日本最古の木造建築物である。	○ 3 スカイハウスは、菊竹清訓の設計であり、取替えや位置の変更が可能な「ムーブメント」と呼ばれる設備ユニットを備え、4枚の壁柱に支えられた住宅である。	○ 3 神奈川県立近代美術館(1951年)は、坂倉準三の設計であり、鎌倉の鶴岡八幡宮境内の中の池に面し、中庭を囲んだコの字型の平面を持つ建物である。	○ 3 伊勢神宮内宮正殿は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた建築物である。
○ 4 神奈川県立近代美術館は、坂倉準三の設計であり、鎌倉の鶴岡八幡宮内で中庭を囲んだコの字型の平面を持つ、日本初の公立近代美術館である。	○ 4 中尊寺金堂(岩手県)は、外観が総漆塗りの金箔押しで仕上げられた方三間の仏堂であり、平安時代、藤原清衡に建てられた建築物である。	○ 4 塔の家は、東孝光の設計であり、都市部の狭い不整形な敷地に対し、住空間は極めて狭いながら垂直方向に積層して広がりを持たせた住宅である。	× 4 広島平和記念資料館(1952年)は、丹下健三の設計であり、原爆の資料を展示している広島市平和記念公園内に建つ建物である。	○ 4 薬師寺東塔は、本瓦葺きの三重塔であり、各重に裳階が付いた建築物である。
○ 5 国立西洋美術館本館は、ル・コルビュジェの設計であり、1998年の改修では、免震レトロフィット工法が採用されている。	○ 5 東大寺南大門(奈良県)は、大仏様(天竺様)の建築様式であり、奈良時代に完成したが焼失し、鎌倉時代に再建された建築物である。	× 5 軽井沢の山荘は、吉村順三の設計であり、1階が土台を兼ねた鉄筋コンクリート造で、大きく張り出した片流れ屋根の木造2階部分が特徴の住宅である。	○ 5 東京文化会館(1961年)は、前川國男の設計であり、上の公園内にあるコンクリートの打ちっ放しの巨大な庇を特徴とする建物である。	○ 5 日光東照宮は、徳川家康をまつるために建造されたものであり、本殿と拝殿とを石の間で繋ぐ権現造りの重層建築である。

